

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平5-42054

(43) 公開日 平成5年(1993)2月23日

(51) Int.Cl. <sup>5</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 4 7 K 1/02		7150-2D		
A 4 7 B 67/02		8915-3K		
A 4 7 G 1/02		6908-3K		
G 0 2 B 5/08	F	7316-2K		

審査請求 未請求 請求項の数3(全7頁)

(21) 出願番号 特願平3-203124

(22) 出願日 平成3年(1991)8月14日

(71) 出願人 000005832

松下電工株式会社

大阪府門真市大字門真1048番地

(72) 発明者 池本 均

大阪府門真市大字門真1048番地松下電工株式会社内

(72) 発明者 越島 次郎

大阪府門真市大字門真1048番地松下電工株式会社内

(72) 発明者 小澤 幸生

大阪府門真市大字門真1048番地松下電工株式会社内

(74) 代理人 弁理士 石田 長七 (外2名)

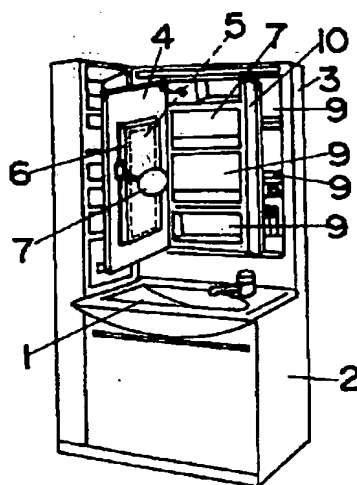
(54) 【発明の名称】 洗面化粧台

(57) 【要約】

【目的】主鏡に付設された補助鏡の使い勝手を良くする。

【構成】洗面ボウル1が設けられた下部キャビネット2の背部より上方に上部キャビネット3を立設する。上部キャビネット3の前面に一端を軸支して開閉自在な主鏡4を設ける。主鏡4の背面に設けられた曇り止めヒータ5を覆うように主鏡4の背面にヒータカバー6を取着する。主鏡4の一端の軸支部分の反対側に位置するヒータカバー6の他端に回動自在に補助鏡7を設ける。また、補助鏡7をヒータカバー6の端部に水平回動自在に設けるようにしてもよい。また、ヒータカバー6の背面側に補助鏡7を収納配置するための収納凹所8を設け、収納凹所8に補助鏡7を出し入れ自在に収納してもよい。

- 1…洗面ボウル
- 2…下部キャビネット
- 3…上部キャビネット
- 4…主鏡
- 5…曇り止めヒータ
- 6…ヒータカバー
- 7…補助鏡



1

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 洗面ボウルが設けられた下部キャビネットの背部より上方に立設される上部キャビネットの前面に一端を軸支して開閉自在な主鏡を設け、主鏡の背面に設けられた曇り止めヒータを覆うように主鏡の背面にヒータカバーを装着し、主鏡の一端の軸支部分の反対側に位置するヒータカバーの他端に回動自在に補助鏡を設けて成ることを特徴とする洗面化粧台。

【請求項2】 補助鏡をヒータカバーの端部に水平回動自在に設けて成ることを特徴とする請求項1に記載の洗面化粧台。

【請求項3】 ヒータカバーの背面側に補助鏡を収納配置するための収納凹所を設け、収納凹所に補助鏡を出し入れ自在に収納して成ることを特徴とする請求項1または請求項2に記載の洗面化粧台。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、複数の鏡が設置された洗面化粧台に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 従来、洗面化粧台は洗面ボウルが載設された下部キャビネットと、下部キャビネットの背部より上方に立設された前面に鏡を有する上部キャビネットとにより主体が構成されている。そして、洗面化粧台は単に洗顔を行うと共に歯を磨くといった行為だけでなく、鏡台で行っていたような化粧行為を行うようなこともある。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかし、上述のような従来例にあつては、メイクアップとかアイシャドウを付けるような化粧行為は手鏡的なものであり、顔を鏡に近接させて行われる。これを上記のような洗面化粧台にて行おうとすると下部キャビネットの存在によって鏡に顔を近づけにくいために下部キャビネット越しに腰を折り曲げて鏡に顔を近づける必要があり、窮屈な姿勢で化粧行為を行わなければならないという問題があった。また、手鏡を洗面台の周辺に配置しておくことも考えられるが、化粧行為やコンタクトレンズ等を付ける行為では両手が必要となることも多く、手鏡を片手で持つことができないということもあり、さらに、手鏡の収納場所に困るという問題がある。

【0004】 本発明は上記問題点の解決を目的とするものであり、使い勝手のよい手鏡機能の付いた洗面化粧台を提供しようとするものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】 本発明では、上記目的を達成するために、洗面ボウル1が設けられた下部キャビネット2の背部より上方に立設される上部キャビネット3の前面に一端を軸支して開閉自在な主鏡4を設け、主鏡4の背面に設けられた曇り止めヒータ5を覆うように

2

主鏡4の背面にヒータカバー6を装着し、主鏡4の一端の軸支部分の反対側に位置するヒータカバー6の他端に回動自在に補助鏡7を設けたものである。

【0006】 また、補助鏡7をヒータカバー6の端部に水平回動自在に設けるようにしてもよい。また、ヒータカバー6の背面側に補助鏡7を収納配置するための収納凹所8を設け、収納凹所8に補助鏡7を出し入れ自在に収納するようにしてもよい。

【0007】

【作用】 しかし、主鏡4を開いて主鏡4の裏面側に配された補助鏡7を回動させることで補助鏡7を前方に突出させることができ、前方に突出した補助鏡7に顔を近づけて両手を使用しながら化粧行為等を行うことができる。また、ヒータカバー6に設けられた収納凹所8内に補助鏡7が収納されるようになっていると主鏡4を閉じた場合に主鏡4の背面側に配される補助鏡7が背方に大きく突出したりするようなことがないものであり、収納状態で補助鏡7が邪魔になったりするようなことがない。

20 【0008】

【実施例】 以下、本発明を図示された実施例に基づいて詳述する。洗面化粧台は図1に示されるように上部に洗面ボウル1が載設された下部キャビネット2と、下部キャビネット2の背部より上方に立設された上部キャビネット3とにより構成されている。上部キャビネット3は前面が開いた箱状に形成されており、内部には複数の収納部9が設けられており、各収納部9を閉じるように前面開口には鏡が取付けられている。鏡は上部キャビネット3の前面中央に配される主鏡4と、主鏡4の両側に配される副鏡10とで構成されており、各鏡は図2に示されるようにそれぞれ一端を軸着して開閉自在に上部キャビネット3の前面開口に取付けられており、主鏡4または副鏡10を開くことで鏡の奥方に配された収納部9より化粧道具等を取り出すことができるようになっている。主鏡4の背面には曇り止めヒータ5が設けられており、この曇り止めヒータ5はヒータカバー6によって覆われている。軸着された主鏡4の一端側の反対側に位置するヒータカバー6の他端には回動自在に補助鏡7が取付けられている。補助鏡7が取付けられることとなるヒータカバー6の他端には図5に示されるように上下端で対向するように取付板11が側方に向けて突設されており、取付板11間には取付軸12が設けられており、この取付軸12に補助鏡7が取付けられている。図6は他の実施例を示すものであり、このものにあつては、取付板11をヒータカバー6の側端面より側方に突設するようにしている。補助鏡7は図7に示されるように取付軸12が挿通される挿通孔13を有する連結部材14の端部より支持アーム15を突設し、この支持アーム15の先端に鏡を取付けて構成されており、挿通孔13内に取付軸12を挿通し、連結部材14の端部に設けられた取

付ねじ16を締め込むことで取付軸12の所定位置に取付けられており、主鏡4の裏面に直接取付金具を取付けたりすることなく、主鏡4の背面に取付けられたヒータカバー6を用いて補助鏡7の取付けが行われている。そして、補助鏡7は図9に示されるように取付軸12を軸として水平方向に回動自在となっており、また、図8に示されるように取付軸12に沿って上下に高さ調整を行うことができるようになっている。

【0009】図10乃至図12は補助鏡7の他の実施例を示しており、このものにおいては、補助鏡7より突設される支持アーム15の端部に球状のボール体17を設け、このボール体17を連結部材14の端部に設けられた保持溝18に保持させるようにしている。そして、ボール体17が保持溝18内で回転することで補助鏡7を垂直方向に回動させて位置調整することができるようになっており、図14に示されるようにのぞき込むような姿勢で補助鏡7を使用することもできるようになっている。

【0010】図15、図16は補助鏡7のさらに他の実施例を示しており、図15にて示されるものにあつては、連結部材14の挿通孔13に挿通される取付軸12を押圧固定するための固定ねじ19が設けられており、この固定ねじ19を緩めて補助鏡7を取付軸12に沿って上下動させることができるようになっている。また、図16に示されるものにあつては、連結部材14を洗濯ばさみのような構造としてばね20の力で取付軸12の所定高さに固定されるようになっている。

【0011】上記ヒータカバー6の背面には図17、図18に示されるように補助鏡7を収納配置するための収納凹所8が設けられており、補助鏡7は支持アーム15を連結部材14に対して折り畳んだ状態として収納凹所8内に収納することができるようになっている。このように構成されていると収納時の補助鏡7が背方に突出するようなことがなく、主鏡4を閉じた状態で主鏡4の背方に設けられた収納部9の収納空間が狭くなるようなことがないものであり、また、ヒータカバー6に設けられた収納凹所8内に収納されていることで曇り止めヒータ5によって暖められることとなり、曇り止めされることとなるものである。

【0012】しかし、化粧等を行うに伴って補助鏡7を使用するような場合には主鏡4を開き、次いで補助鏡7を回動させて前方に突出させることで使用することができるものであり、使用時には主鏡4が開かれた状態となっていることから、収納部9内に収納されている化粧道具等の取り出しを行いやすいものであり、また、下部キャビネット2の上部に洗面ボウル1が設けられているといえども、補助鏡7は主鏡4を開いた状態で前方に突出された状態となっており、前方に腰を屈めたりするようなことなく補助鏡7を使用して化粧等を行うことができるものである。

【0013】

【発明の効果】本発明は上述のように、洗面ボウルが設けられた下部キャビネットの背部より上方に立設される上部キャビネットの前面に一端を軸支して開閉自在な主鏡を設け、主鏡の背面に設けられた曇り止めヒータを覆うように主鏡の背面にヒータカバーを取着し、主鏡の一端の軸支部分の反対側に位置するヒータカバーの他端に回動自在に補助鏡を設けているので、主鏡を開いて主鏡の裏面側に配された補助鏡を回動させることで補助鏡を前方に突出させることができ、前方に突出した補助鏡に顔を近づけて両手を使用しながら化粧行為等を行うことができるものであり、両手を使用しながらの楽な姿勢で化粧行為等を行うことができるものである。

【0014】また、ヒータカバーの背面側に補助鏡を収納配置するための収納凹所を設け、収納凹所に補助鏡を出し入れ自在に収納するようにしてあると、主鏡を閉じた場合に主鏡の背面側に配される補助鏡が背方に大きく突出したりするようなことがないものであり、収納状態で補助鏡が邪魔になったりするようなことがないものである。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例を示す主鏡を開いた状態の斜視図である。

【図2】同上の補助鏡の配置状態を示す平面図である。

【図3】同上の上部キャビネットの正面図である。

【図4】同上のヒータカバーの取付状態を斜視図である。

【図5】同上のヒータカバーへの補助鏡の取付状態を斜視図である。

【図6】同上の他の実施例を斜視図である。

【図7】同上の取付軸への補助鏡の取付状態を示す平面図である。

【図8】同上の補助鏡の動作状態を示す正面図である。

【図9】同上の補助鏡の動作状態を示す平面図である。

【図10】同上の補助鏡の他の実施例を示す正面図である。

【図11】図10におけるイーイー線断面図である。

【図12】同上の平面図である。

【図13】同上の補助鏡の動作状態を示す正面図である。

【図14】同上の使用状態を説明する説明図である。

【図15】同上の補助鏡の他の実施例を示す平面図である。

【図16】同上の補助鏡のさらに他の実施例を示す平面図である。

【図17】同上の補助鏡の収納状態を示す平面図である。

【図18】同上の斜視図である。

【符号の説明】

1 洗面ボウル

5

6

- 2 下部キャビネット  
3 上部キャビネット  
4 主鏡  
5 曇り止めヒータ  
6 ヒータカバー

- 7 補助鏡  
8 収納凹所

【図1】

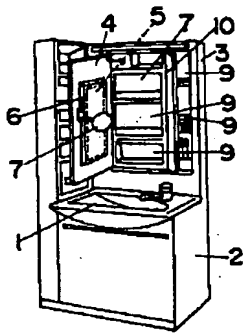
【図2】

【図3】

【図4】

【図5】

- 1…洗面ボウル  
2…下部キャビネット  
3…上部キャビネット  
4…主鏡  
5…曇り止めヒータ  
6…ヒータカバー  
7…補助鏡



【図6】

【図7】

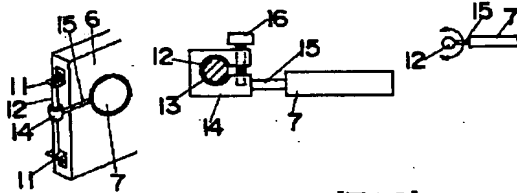
【図8】

【図10】

【図11】

【図12】

【図9】



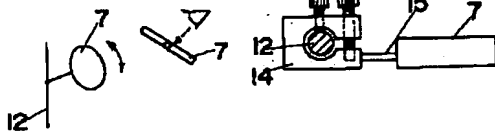
【図13】

【図14】

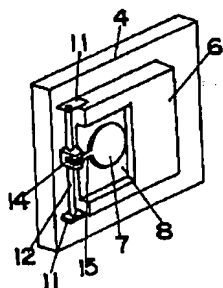
【図15】

【図16】

【図17】



【図18】



【手続補正書】

【提出日】平成3年10月7日

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正内容】

【書類名】明細書

【発明の名称】洗面化粧台

【特許請求の範囲】

【請求項1】洗面ボウルが設けられた下部キャビネットの背部より上方に立設される上部キャビネットの前面に一端を軸支して開閉自在な主鏡を設け、主鏡の一端の軸支部分から軸支部分の反対方向に向かって離れた位置に回動自在に補助鏡を設けて成ることを特徴とする洗面化粧台。

【請求項2】補助鏡を主鏡の一端の軸支部分から軸支部分の反対方向に向かって離れた位置に水平回動自在に設けて成ることを特徴とする請求項1に記載の洗面化粧台。

【請求項3】ヒータカバーの背面側に補助鏡を収納配置するための収納凹所を設け、収納凹所に補助鏡を出し入れ自在に収納して成ることを特徴とする請求項1または請求項2に記載の洗面化粧台。

【請求項4】洗面ボウルが設けられた下部キャビネットの背部より上方に立設される上部キャビネットの前面に一端を軸支して開閉自在な主鏡を設け、主鏡の背面に設けられた曇り止めヒータを覆うように主鏡の背面にヒータカバーを装着し、主鏡の一端の軸支部分から軸支部分の反対方向に向かって離れた位置に回動自在に補助鏡を設けて成ることを特徴とする請求項1に記載の洗面化粧台。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、複数の鏡が設置された洗面化粧台に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、洗面化粧台は洗面ボウルが載設された下部キャビネットと、下部キャビネットの背部より上方に立設された前面に鏡を有する上部キャビネットとにより主体が構成されている。そして、洗面化粧台は単に洗顔を行うと共に歯を磨くといった行為だけでなく、鏡台で行っていたような化粧行為を行うようなこともある。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかし、上述のような従来例にあっては、メイクアップとかアイシャドウを付けるような化粧行為は手鏡的なものであり、顔を鏡に近接させて行われる。これを上記のような洗面化粧台にて行おうとすると下部キャビネットの存在によって鏡に顔を近づけにくいために下部キャビネット越しに腰を折り曲げて鏡に顔を近づける必要があり、窮屈な姿勢で化粧行為を行わなければならないという問題があった。また、手鏡を洗面台の周辺に配置しておくことも考えられるが、化粧行為やコンタクトレンズ等を付ける行為では両手が必要となることも多く、手鏡を片手で持つことができないということもあり、さらに、手鏡の収納場所に困るという問題がある。

【0004】本発明は上記問題点の解決を目的とするものであり、使い勝手のよい手鏡機能の付いた洗面化粧台を提供しようとするものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明では、上記目的を達成するために、洗面ボウル1が設けられた下部キャビネット2の背部より上方に立設される上部キャビネット3の前面に一端を軸支して開閉自在な主鏡4を設け、主鏡4の一端の軸支部分から軸支部分の反対方向に向かって離れた位置に回動自在に補助鏡7を設けたものである。

【0006】また、補助鏡7を主鏡4の一端の軸支部分から軸支部分の反対方向に向かって離れた位置に水平回動自在に設けるようにしてもよい。また、ヒータカバー6の背面側に補助鏡7を収納配置するための収納凹所8を設け、収納凹所8に補助鏡7を出し入れ自在に収納するようにしてもよい。また、洗面ボウル1が設けられた下部キャビネット2の背部より上方に立設される上部キャビネット3の前面に一端を軸支して開閉自在な主鏡4を設け、主鏡4の背面に設けられた曇り止めヒータ5を覆うように主鏡4の背面にヒータカバー6を装着し、主鏡4の一端の軸支部分から軸支部分の反対方向に向かって離れた位置に回動自在に補助鏡7を設けたものである。

【0007】

【作用】しかして、主鏡4を開いて主鏡4の裏面側に配された補助鏡7を回動させることで補助鏡7を前方に突出させることができ、前方に突出した補助鏡7に顔を近づけて両手を使用しながら化粧行為等を行うことができる。また、ヒータカバー6に設けられた収納凹所8内に補助鏡7が収納されるようになっていると主鏡4を閉じた場合に主鏡4の背面側に配される補助鏡7が背方に大きく突出したりするようなことがないものであり、収納状態で補助鏡7が邪魔になったりするようなことがない。

【0008】また、鏡1の背面に配された曇り止めヒータ2を覆うヒータカバー3に対して補助鏡5の取付けが行われるようになっていると、補助鏡5を取付けるにあたって、取付用の部材を別途に鏡1の背面に設置することなく、既設のヒータカバー3を利用して補助鏡5の取付けを行うことができる。

## 【0009】

【実施例】以下、本発明を図示された実施例に基づいて詳述する。洗面化粧台は図1に示されるように上部に洗面ボウル1が載設された下部キャビネット2と、下部キャビネット2の背部より上方に立設された上部キャビネット3とにより構成されている。上部キャビネット3は前面が開口した箱状に形成されており、内部には複数の収納部9が設けられており、各収納部9を閉じるように前面開口には鏡が取付けられている。鏡は上部キャビネット3の前面中央に配される主鏡4と、主鏡4の両側に配される副鏡10とで構成されており、各鏡は図2に示されるようにそれぞれ一端を軸着して開閉自在に上部キャビネット3の前面開口に取付けられており、主鏡4または副鏡10を開くことで鏡の奥方に配された収納部9より化粧道具等を取り出すことができるようになっている。主鏡4の背面には曇り止めヒータ5が設けられており、この曇り止めヒータ5はヒータカバー6によって覆われている。軸着された主鏡4の一端側の反対側に位置するヒータカバー6の他端には回動自在に補助鏡7が取付けられている。補助鏡7が取付けられることとなるヒータカバー6の他端には図5に示されるように上下端で対向するように取付板11が側方に向けて突設されており、取付板11間には取付軸12が設けられており、この取付軸12に補助鏡7が取付けられている。図6は他の実施例を示すものであり、このものにあつては、取付板11をヒータカバー6の側端面より側方に突設するようにしている。補助鏡7は図7に示されるように取付軸12が挿通される挿通孔13を有する連結部材14の端部より支持アーム15を突設し、この支持アーム15の先端に鏡を取付けて構成されており、挿通孔13内に取付軸12を挿通し、連結部材14の端部に設けられた取付ねじ16を締め込むことで取付軸12の所定位置に取付けられており、主鏡4の裏面に直接取付金具を取付けたりすることなく、主鏡4の背面に取付けられたヒータカバー6を用いて補助鏡7の取付けが行われている。そして、補助鏡7は図9に示されるように取付軸12を軸として水平方向に回動自在となっており、また、図8に示されるように取付軸12に沿って上下に高さ調整を行うことができるようになっている。

【0010】図10乃至図12は補助鏡7の他の実施例を示しており、このものにおいては、補助鏡7より突設される支持アーム15の端部に球状のボール体17を設け、このボール体17を連結部材14の端部に設けられた保持溝18に保持させるようにしている。そして、ボール体17が保持溝18内で回転することで補助鏡7を垂直方向に回動させて位置調整することができるようになっており、図14に示されるようにのぞき込むような姿勢で補助鏡7を使用することもできるようになっている。

【0011】図15、図16は補助鏡7のさらに他の実

施例を示しており、図15にて示されるものにあつては、連結部材14の挿通孔13に挿通される取付軸12を押圧固定するための固定ねじ19が設けられており、この固定ねじ19を緩めて補助鏡7を取付軸12に沿って上下動させることができるようになっている。また、図16に示されるものにあつては、連結部材14を洗濯ばさみのような構造としてばね20の力で取付軸12の所定高さに固定されるようになっている。

【0012】上記ヒータカバー6の背面には図17、図18に示されるように補助鏡7を収納配置するための収納凹所8が設けられており、補助鏡7は支持アーム15を連結部材14に対して折り畳んだ状態として収納凹所8内に収納することができるようになっている。このように構成されていると収納時の補助鏡7が背方に突出するようなことがなく、主鏡4を閉じた状態で主鏡4の背方に設けられた収納部9の収納空間が狭くなるようなことがないものであり、また、ヒータカバー6に設けられた収納凹所8内に収納されていることで曇り止めヒータ5によって暖められることとなり、曇り止めされることとなるものである。

【0013】しかして、化粧等を行うに伴って補助鏡7を使用するような場合には主鏡4を開き、次いで補助鏡7を回動させて前方に突出させることで使用することができるものであり、使用時には主鏡4が開かれた状態となっていることから、収納部9内に収納されている化粧道具等の取り出しを行いやすいものであり、また、下部キャビネット2の上部に洗面ボウル1が設けられているといえども、補助鏡7は主鏡4を開いた状態で前方に突出された状態となっており、前方に腰を屈めたりするようなことなく補助鏡7を使用して化粧等を行うことができるものである。

## 【0014】

【発明の効果】本発明は上述のように、洗面ボウルが設けられた下部キャビネットの背部より上方に立設される上部キャビネットの前面に一端を軸支して開閉自在な主鏡を設け、主鏡の背面に設けられた曇り止めヒータを覆うように主鏡の背面にヒータカバーを取着し、主鏡の一端の軸支部分の反対側に位置するヒータカバーの他端に回動自在に補助鏡を設けているので、主鏡を開いて主鏡の裏面側に配された補助鏡を回動させることで補助鏡を前方に突出させることができ、前方に突出した補助鏡に顔を近づけて両手を使用しながら化粧行為等を行うことができるものであり、両手を使用しながらの楽な姿勢で化粧行為等を行うことができるものである。

【0015】また、ヒータカバーの背面側に補助鏡を収納配置するための収納凹所を設け、収納凹所に補助鏡を出し入れ自在に収納するようにしてあると、主鏡を閉じた場合に主鏡の背面側に配される補助鏡が背方に大きく突出したりするようなことがないものであり、収納状態で補助鏡が邪魔になったりするようなことがないもので

ある。

【0016】また、鏡の背面に配された曇り止めヒータを覆うヒータカバーに対して補助鏡の取付けを行うようにしてあると、補助鏡を取付けるにあたって、取付用の部材を別途に鏡の背面に設置する必要がないものであり、既設のヒータカバーを利用して補助鏡の取付けを行うことができるものである。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例を示す主鏡を開いた状態の斜視図である。

【図2】同上の補助鏡の配置状態を示す平面図である。

【図3】同上の上部キャビネットの正面図である。

【図4】同上のヒータカバーの取付状態を斜視図である。

【図5】同上のヒータカバーへの補助鏡の取付状態を斜視図である。

【図6】同上の他の実施例を斜視図である。

【図7】同上の取付軸への補助鏡の取付状態を示す平面図である。

【図8】同上の補助鏡の動作状態を示す正面図である。

【図9】同上の補助鏡の動作状態を示す平面図である。

【図10】同上の補助鏡の他の実施例を示す正面図であ

る。

【図11】図10におけるイーイ線断面図である。

【図12】同上の平面図である。

【図13】同上の補助鏡の動作状態を示す正面図である。

【図14】同上の使用状態を説明する説明図である。

【図15】同上の補助鏡の他の実施例を示す平面図である。

【図16】同上の補助鏡のさらに他の実施例を示す平面図である。

【図17】同上の補助鏡の収納状態を示す平面図である。

【図18】同上の斜視図である。

【符号の説明】

- 1 洗面ボウル
- 2 下部キャビネット
- 3 上部キャビネット
- 4 主鏡
- 5 曇り止めヒータ
- 6 ヒータカバー
- 7 補助鏡
- 8 収納凹所